

播種前にできることは 徹底して準備しましょう！

1. 排水対策＜出芽・生育確保のポイントは停滞水の排出＞

そばは湿害に弱く、特に圃場表面の停滞水は出芽や生育を阻害し、収量に大きく影響します。降雨に備え、圃場の排水対策を行いましょよう。

対策① 額縁明渠の設置

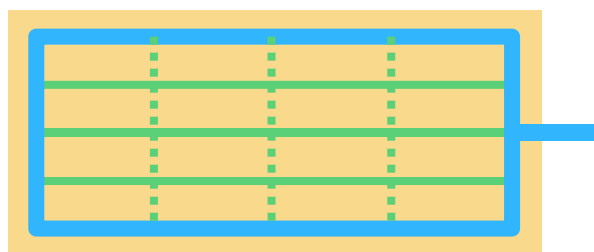
深さ 30cm 以上を目安になるべく深く施工
圃場排水口に確実につなぐ。

対策② 圃場内排水溝の設置

約 4 m 間隔で施工
圃場排水口に確実につなぐ。

対策③ サブソイラ等による心土破碎

深さ 30 cm 前後、2～3 m 間隔で施工
明渠・排水溝と直交するように配置する。



- 額縁明渠
- 圃場内排水溝
- 心土破碎

排水対策の模式図

2. 耕起作業 ＜ポイントを押さえて出芽率を高めよう！＞

ポイント① 碎土率

直径 1 cm 以下の土塊の割合 (= 碎土率)
は 60% 以上を目標にする。

圃場が乾燥しているときに耕起を行う。

ポイント② 耕起深

耕起の深さは 15 cm 以上

ポイント③ 雑草対策

圃場の乾いているときに耕起を行い、
雑草をすき込む。



碎土率が低いと出芽率低下や雑草増加の原因となる

3. 施肥と土壌改良 <適切な施肥・土壌pHで収量安定を目指す>

施肥

- 基準施肥量は、窒素 2～4 kg・リン酸 6～9 kg・カリ 6～9 kg(/10a)
- 野菜の後作の場合は窒素を施肥せず、リン酸・カリのみを施用する。
- 過度の窒素施用は徒長・倒伏の原因になる。
- リン酸は欠乏すると生育量・収量が大きく低下する。少ない場合はようりん等の施用を検討する。



リン酸肥料がそばの生育に与える影響

(農研機構九州沖縄農業研究センター「ソバ春まき栽培マニュアル」より)

土壌改良

- 酸性土壌 (pH 4.5以下) で生育が阻害される。
- pHが低い圃場では、石灰資材を用いて pH 6.0程度になるよう徐々に改良する。

4. 播種作業

播種適期 : 平坦部 8月1日～10日頃、中山間・山間部 7月25日～8月5日

- そばの早播きは徒長・倒伏をまねき、遅播きは生育量が減少し減収につながる。また、播種直後の降雨や停滞水は、出芽率を極端に低下させる (下表)。適期内で晴れの続く日に播種作業を行う。

播種直後の湛水処理とそばの出芽率 (長野県中信農試)

湛水条件	出芽率 (%)
湛水なし	87
1日湛水	26
3日湛水	3

著しく低下

※播種直後湛水処理

播種量 (10aあたり): 5～6kg (散播で碎土が不十分なとき 7～8kg)

- m^2 あたり苗立数約 150本 (A4クリアファイルの中に9～10本見える) の確保を目標に、適量播種につとめる。
- 【ドリル播き】播種深が均一になるため、安定した出芽が期待できる。
ただし間隔が広いと雑草が繁茂するため、条間は20～30cmとする。
- 【散播】播種後にロータリー等で深さ5cm程度耕起し、土壌混和・覆土する。

あぐりん (やまがたアグリネット) で最新情報入手!

PC やスマートフォンから、作物別・地域別のタイムリーな技術情報・病害虫・防除・農薬情報をご覧になれます!

